

東邦大学における電子リソースの利用状況

大谷 裕

東邦大学医学メディアセンター

東邦大学では、2011年4月より電子リソースに関する業務全般を担当する部署として、電子情報部門を新たに設立した。本部門では、近年の電子資料の取り扱いが増えている現状に合わせ、業務の比重を印刷資料から電子資料管理へシフトさせる狙いのもと、電子資料の情報収集、契約、広報、トライアルや講習会の設定など、幅広い業務を行っている。2012年6月現在、医学メディアセンターから1名、習志野メディアセンターから1名の計2名が本業務にあたっている。

発表では電子情報部門が毎月収集している電子リソースの利用統計をまとめ、その動向や費用対効果について検討を行う。

【目的】

利用者ニーズに沿った適切な電子リソースコレクションの構築を行うべく、電子リソースの利用状況を把握する。

【対象】

2011年に東邦大学が契約していた電子ジャーナル、電子ブック、データベースなどの電子リソースの利用数。

※利用数：基本的にオンライン情報資源の利用状況を測定する世界的な指針のひとつである COUNTER (Counting Online Usage of NeTworked Electronic) を用いることとする。

【方法】

I. 電子ジャーナル

パッケージ契約、電子版個別契約タイトル、冊子体と電子版の組み合わせ契約タイトルなど、契約形態ごとに分類し COUNTER Journal Report 1 の PDF+HTML 数を用い、検討を行う。またこれとは別にトランザクション契約の利用動向についても検討を行う。

II. 電子ブック

COUNTER Book Report 2 のセクション・ダウンロードの数を用い、検討を行う

III. データベース

基本的に Counter Database Report 1 のログイン数(Sessions)を用い検討を行う。
なお対応していないデータベースに付いては同様の数値を参考値として用いる。